

空港対策等交通問題

12月定例会開会中の1日、21日の両日、当委員会が開催されました。

昨年11月、県が「小木・直江津航路のあり方検討会議」を設置し、赤字航路である同航路の改革に乗り出し、改革案の中に同航路の廃止もあり得るとの新聞報道がなされ、佐渡島民に大きな衝撃を与えました。

当委員会はこれを受けて、同問題に絞って議論を交わしました。その結果、同航路は島と本土を結ぶ生活航路であり、国道350号線にも指定されていることから、同航路の廃止は絶対に許されないと認識で一致しました。

また、上越市がこの問題に「上越市小木・直江津航路



活性化会議」を設置し、素早く対応しているところから、佐渡市議会としても意見書を提出して、この問題に対して強い姿勢で臨むべきであるとの意見が多数を占め、本会議最終日に可決の決定をみました。

「あり方検討会議」は平成18年夏ごろに最終的な取りまとめを行うとしていますが、その結論が島民の意に沿ったものであるよう努めたい。

観光問題等調査

3月定例会に審査結果を報告することを前提にして、今日までの審査を総まとめする形で審査を進めました。その主なるものを列記します。

①観光協会について

統合が具体化したことは評価できる。今後は、観光協会が最前面で、宣伝・誘客に努めるべきである。

②広域観光圏の確立

新潟・長岡・上越との広域観光圏を早期に確立すべきである。

③あいびすの欠航対策

あいびすの就航が、入込み数の押し上げに貢献しているが、欠航対策を早期に講ずべ

きである。

④シャトルバスについて

宣伝不十分ではないか。利用率を高める努力が必要。

⑤観光資源開発室

活動が目に見えない。工夫すべきである。



行財政改革等調査

12月20日に委員会を開催しました。当委員会では、すでに平成16年9月定例会と平成17年9月定例会において、中間報告を行い、一定の行政指針となる提言を行ってきました。それらを踏まえ、平成18年3月定例会で報告する予定の最終報告を、どのような方向で行うか全委員で検討しました。

